

3月6日（金）啓蟄

3月になると、土の中で冬ごもりしていた虫たちが地上に出てくるころです。一年を24つに分けると、「啓蟄」といわれる時期になりました。暖かい地域ではチョウやアリを見かけるようになります。



日差しがだんだん強くなり、土の中が暖かくなって、冬眠している虫たちは春が来たことを感じて地上に出てきます。寒さに震えていた時期が長いほど、暖かくなると外に出たくなるのは、人間も同じですよ。

また、春の雷が、虫たちを目覚めさせるとも言われています。このころの雷は「虫出しの雷」と呼ばれます。

子供の頃を思い出します。寒い日は布団から出たくなくて、目が覚めても、布団の中からはなかなか出ませんでした。すると、お母さんから「早く起きなさい！」と大きな声で起こされたものです。「雷みたいだ」なんて、思ってしまったことを、思い出します。

雷が鳴ったら、虫たちが起こされて地上に出てきます。ぜひ、観察してみてください。